

～6 mg を加えて振り混ぜ、10 分間放置するとき、液は黄色又は黄褐色を呈する。

融点 175 ～ 179 °C

純度試験

(1) 溶状 本品 0.5 g を水酸化ナトリウム試液 5 mL に溶かすとき、液は無色澄明である。

(2) 塩化物 本品 0.30 g をアセトン 20 mL に溶かし、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.01 mol/L 塩酸 0.30 mL にアセトン 20 mL、希硝酸 6 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.035 % 以下)。

(3) 硫酸塩 本品 0.40 g をアセトン 20 mL に溶かし、希塩酸 1 mL 及び水を加えて 50 mL とする。これを検液とし、試験を行う。比較液は 0.005 mol/L 硫酸 0.40 mL にアセトン 20 mL、希塩酸 1 mL 及び水を加えて 50 mL とする (0.048 % 以下)。

(4) 重金属 本品 1.0 g をとり、第 2 法により操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液 2.0 mL を加える (20 ppm 以下)。

(5) フェニルバルビツール酸 本品 1.0 g にエタノール (95) 5 mL を加え、3 分間煮沸して溶かすとき、液は澄明である。

(6) 硫酸呈色物 本品 0.5 g をとり、試験を行う。液の色は色の比較液 A より濃くない。

乾燥減量 1.0 % 以下 (1 g, 105 °C, 2 時間)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

定量法 本品を乾燥し、その約 0.5 g を精密に量り、*N,N*-ジメチルホルムアミド 50 mL に溶かし、0.1 mol/L 水酸化カリウム・エタノール液で滴定する (指示薬: アリザリンエロー GG・チモールフタレイン試液 1 mL)。ただし、滴定の終点は液の黄色が黄緑色に変わるときとする。別に *N,N*-ジメチルホルムアミド 50 mL にエタノール (95) 22 mL を加えた液につき、同様の方法で空試験を行い、補正する。

$$0.1 \text{ mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 } 1 \text{ mL} \\ = 23.224 \text{ mg } C_{12}H_{12}N_2O_3$$

貯法 容器 密閉容器。

フェノバルビタール散 10%

10% Phenobarbital Powder

フェノバルビタール散

フェノバルビタール 10 倍散

本品は定量するとき、フェノバルビタール ($C_{12}H_{12}N_2O_3$: 232.24) 9.3 ～ 10.7 % を含む。

製法

フェノバルビタール	100 g
デンプン、乳糖又はこれらの混合物	適量
全量	1000 g

以上をとり、散剤の製法により製する。

確認試験 本品 5 g にヘキサン 20 mL を加えてよく振り混ぜた後、ろ過する。残留物を水浴上で乾燥し、クロロホルム

30 mL ずつで 4 回抽出する。クロロホルム抽出液を合わせ、ろ過する。ろ液を蒸発乾固し、残留物を 105 °C で 1 時間乾燥したものの融点は 174 ～ 179 °C である。また、このものにつき、「フェノバルビタール」の確認試験 (1) 及び (2) を準用する。

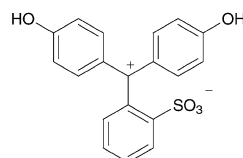
定量法 本品約 10 g を精密に量り、共栓フラスコにとり、クロロホルム/エタノール (95) 混液 (10:1) 100 mL を正確に加え、密栓して振り混ぜ、30 分間放置した後、共栓遠心沈殿管に入れ遠心分離する。上澄液 50 mL を正確に量り、水浴上で蒸発乾固した後、残留物を *N,N*-ジメチルホルムアミド 50 mL に溶かし、以下「フェノバルビタール」の定量法を準用する。

$$0.1 \text{ mol/L 水酸化カリウム・エタノール液 } 1 \text{ mL} \\ = 23.224 \text{ mg } C_{12}H_{12}N_2O_3$$

貯法 容器 密閉容器。

フェノールスルホンフタレイン

Phenolsulfonphthalein



$C_{19}H_{14}O_6S$: 354.38

2-[Bis(4-hydroxyphenyl)methyl]benzenesulfonate
[I43-74-8]

本品を乾燥したものは定量するとき、フェノールスルホンフタレイン ($C_{19}H_{14}O_6S$) 98.0 % 以上を含む。

性状 本品は鮮赤色～暗赤色の結晶性の粉末である。

本品は水又はエタノール (95) に極めて溶けにくい。

本品は水酸化ナトリウム試液に溶ける。

確認試験

(1) 本品 5 mg を水酸化ナトリウム試液 2 ～ 3 滴に溶かし、0.05 mol/L 臭素液 2 mL 及び希硫酸 1 mL を加えてよく振り混ぜ、5 分間放置した後、水酸化ナトリウム試液を加えてアルカリ性とするとき、液は濃青紫色を呈する。

(2) 本品 0.01 g に薄めた炭酸ナトリウム試液 (1 → 10) を加えて溶かし、200 mL とする。この液 5 mL をとり、薄めた炭酸ナトリウム試液 (1 → 10) を加えて 100 mL とした液につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定し、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

純度試験

(1) 不溶物 本品約 1 g を精密に量り、炭酸水素ナトリウム溶液 (1 → 40) 20 mL を加え、しばしば振り混ぜて 1 時間放置した後、水を加えて 100 mL とし、24 時間放置する。不溶物を質量既知のガラスろ過器 (G4) を用いてろ取し、炭酸水素ナトリウム溶液 (1 → 100) 25 mL で 1 回及び水 5 mL ずつで 5 回洗い、105 °C で 1 時間乾燥すると